

# グリーン四国

No.1178  
2018年  
5月号

## 平成30年度 事業概要記者発表

3月21日、平成30年度四国森林管理局事業について記者発表を行いました。【詳細は2頁】



### 目次

- ・平成30年度四国森林管理局事業概要の発表について…………… 2
- ・香川大学大学院地域マネジメント研究科で森林・林業の特別講義を行いました… 4
- ・「植える緑化」から「使う緑化へ」春期「緑の募金活動」…………… 4
- ・転任あいさつ…………… 5
- ・大豊町の業務について…………… 6
- ・シリーズ 四国の森林からこんにちは…………… 7
- ・新規採用者の紹介…………… 8



四国山の日

## 四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30  
TEL 088-821-2052  
FAX 088-821-4834  
H P <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>  
E-mail [shikoku\\_soumu@maff.go.jp](mailto:shikoku_soumu@maff.go.jp)

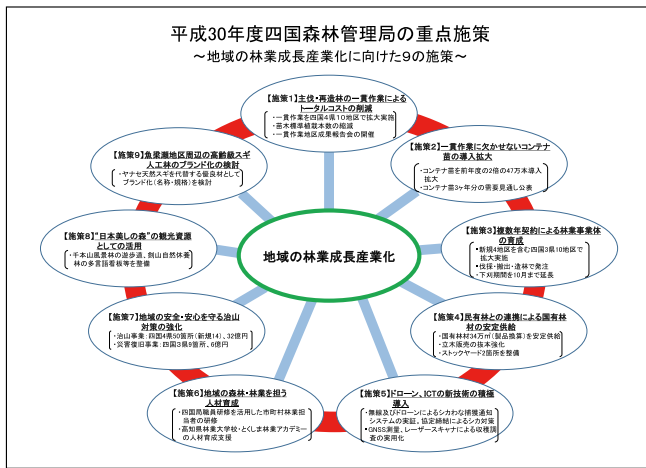
# 平成30年度四国森林管理局事業概要の発表について

〈企画調整課〉

3月21日、平成30年度の四国森林管理局事業概要について記者発表を行いました。

今四国では、相次ぐ大型製材工場や木質バイオマス発電所の稼働によって原木需要が高まり、木材の生産・流通構造の変革につながるダイナミックな動きが生じています。

平成30年には、愛媛県で大型製材



工場、木質バイオマス発電所が相次いで稼働し、新たな巨大な需要が生まれます。また、現在、多くの森林が主伐期を迎える中で、市町村の仲介による新たな森林管理システムや森林環境税（仮称）の創設に向けた検討が進められています。このような中で、四国森林管理局は、その組織・人材・資源を最大限に活用し、地域の皆様と連携し、伐採・造林の低コスト化、国産材の安定供給、ICT等の新技術の導入、森林・林業の人材育成、治山対策の強化等の取組を積極的に推進し、地域の林業成長産業化に貢献してまいります。以下、平成30年度四国森林管理局の重点施策としての地域の林業成長産業化に向けた9の施策概要です。

① 多くの森林が主伐期を迎えていることを踏まえ、平成30年度は、通年植栽が可能なコンテナ苗を活用した主伐・再造林の一貫作業を新たに徳島県・香川県・愛媛県を含む四国4県の6森林管理署（所）10地区で拡大実施します。

② 四国森林管理局の国有林の苗木



標準植栽本数を現行のヘクタールあたり3千本から千5百〜3千本を目安に現地の事情に応じて低密度植栽に取り組めるよう見直します。

③ 年度末に「四国森林管理局一貫作業地区成果報告会」を開催し、各地区で得られた知見の集約と民有林への普及を推進します。

① 平成30年度は、四国森林管理局の苗木調達量の全量をコンテナ苗とし、前年度の2倍となる47万本に拡大します。

① 複数年に渡る安定した事業量の確保による林業事業者の育成を後押しするため、平成30年度は、新たに愛媛県を含む4署4地区で複数年契約（3年以内）を導入します。継続地区を含めると四国3県の6署10地区で拡大実施します。

② 伐採・搬出に加え造林を含めて複数年契約を発注します。下刈りの期間を現行の9月から10月まで延長します。

③ 複数年契約による林業事業者の育成

① 複数年に渡る安定した事業量の確保による林業事業者の育成を後押しするため、平成30年度は、新たに愛媛県を含む4署4地区で複数年契約（3年以内）を導入します。継続地区を含めると四国3県の6署10地区で拡大実施します。

② コンテナ苗の安定生産に資するため、新たに四国森林管理局の3ヶ年分のコンテナ苗の需要見直し（H30〜H32年度）を公表します。

【施策4】 民有林との連携による国有林材の安定供給

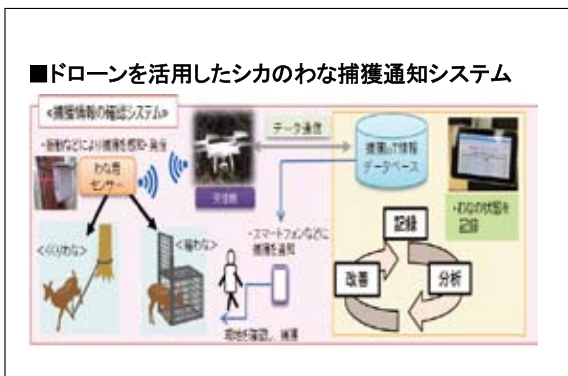
- ① 間伐に加え、主伐・再造林の推進により、民有林と連携し国有林材34万（製品（丸太）換算）を安定供給します。
- ② 立木販売の抜本強化策として（H29年度6.5万↓H30年度22.8万）、ア年間の立木販売予定情報（公売箇所・時期）の公表、イ需要先とマッチング営業活動の強化、ウ立木販売と造林の混合契約の推進、エ立木のシステム販売の推進等の取組を進めます。
- ③ 民有林と国有林の連携による国産材の流通効率化のため、新たにストックヤード2箇所（四万十市西土佐、土佐清水市下川口）を整備します。
- ④ 森林管理局と需要者が協定を締結し、民有林と連携して国有林材を直接需要者に安定供給するシステム販売（製品）を12万に拡大します。

【施策5】 ドローン、ICTの新技術の積極導入

- ① 高知県梶原町、町猟友会と連携し、無線通信を活用したシカのわな捕獲通知システムとジビエ活用

の実証を実施します。

- ② 高知県工業技術センターと連携し、ドローンを活用したシカのわな捕獲通知システムの実証を実施します。
- ③ 猟友会・市町村・森林管理署の協定締結により民有林と国有林が一体となつてシカ被害対策を推進（わな無償貸与、国有林入林手続簡素化、林道ゲート鍵貸与、捕獲技術支援）します。



- ④ 現在の手計測からGNSS（衛星測位システム）を用いた収穫調査区域の周囲測量、地上型レーザースカナを用いた収穫調査の実用化による森林資源調査の効率化・

省力化に向けた取組を進めます。

【施策6】 地域の森林・林業を担う人材育成

- ① 平成30年度に新たに四国森林管理局職員の基礎研修を活用した市町村林業担当者の実務研修を実施（4コース（5月、6月、7月、11月）、4月に募集予定）します。
- ② 高知県（H29年11月）と徳島県（H30年3月）との間で締結した人材育成協定に基づき、国有林を活用した高知県立林業大学校、とくしま林業アカデミーの林業担い手育成を支援（教育実習フィールドの提供、講師派遣、林業生産現場の見学等）します。

【施策7】 地域の安全・安心を守る治山対策の強化

- ① 台風、豪雨等の災害から地域の安全・安心を守る治山事業を新規14箇所を含む四国4県の50箇所（事業費32.3億円）で拡大実施（H29年度四国4県40箇所（25.6億円）↓H30年度四国4県50箇所（32.3億円））します。
- ② 台風や豪雨により被害を受けた山地災害復旧事業を四国3県の9箇所（事業費6億円）で拡大実施します。

【施策8】 豊かな自然と景観を育む「日本美しの森」の観光資源としての活用

- ① 四国では5地区（千本山風景林、工石山自然休養林、剣山自然休養林、石鎚風景林、滑床自然休養林）が「日本美しの森」お薦め国有林に選定されました。
- ② 豊かな自然と景観を育む「日本美しの森」を観光資源として積極的に活用するため、平成30年度は中芸日本遺産の構成文化財で原始的風景の残る千本山風景林の遊歩道整備、剣山自然休養林の多言語看板等の設置を実施します。

【施策9】 魚梁瀬地区周辺の高齢級スギ人工林のブランド化の検討

- ① ヤナセ天然スギについては、資源の維持・保全のため、平成30年度以降伐採・供給を休止することになり、平成29年度に後継樹育成のための間伐を実施し市場出荷・販売しました。最高値は67万円/m（長さ2m、径級138cm）、平均単価は17万円/m（1月24日出荷材積約160.3m）。
- ② 魚梁瀬地区周辺に分布する高齢級スギ人工林から生産される大径材をヤナセ天然スギを代替する優

良材として位置付け、関係者と連携し、ブランド化（ブランド名、丸太の規格等）を検討します。



## 香川大学大学院地域マネジメント研究科で森林・林業の特別講義を行いました

〈香川森林管理事務所〉

4月18日、四国森林管理局は、香川大学大学院地域マネジメント研究科（高松市幸町）で森林・林業とドローン活用の特別講義を行いました。当日は、社会人を中心とする大学院の学生20数名が参加し、野津山

四国森林管理局長が日本と四国の森林・林業の現状と課題や林業成長産業化に向けた四国森林管理局の取組について講義を行いました。



また、香川森林管理事務所ではドローン（2機）を山地災害発生直後の被災状況調査や森林資源調査に活用しており、河野所長がドローンで上空から撮影した屋島、飯野山（讃岐富士）の一日一石運動の様子、伐採や治山事業の現場のパノラマ動画（ドローンでみる香川の国有林）：四国森林管理局ホームページに掲載）を放映しながら解説を行ったほか、崎川担当官がドローンの実物を



使った操作方法、活用方法、注意点などの説明を行いました。

飯野山の一日一石運動は昨年4月22日の運動開始から丁度1周年を迎え、本年4月22日の山開きにあわせ1周年記念行事を行います。講義では、学生の皆さんから、多くの産業で人手不足が問題となる中で林業分野の人材確保のためにどのような取組を行っているのか、高知では様々なタイプのCLT建築ができていますが観光資源に活用できないか、全国で木質バイオマス発電所が相次いで稼働しているが石炭との混焼も同じ状況か、林業分野にはどのような補助金が

入っており、補助金なしでは難しいのかなど、活発な意見が出されました。



## 『植える緑化』から『使う緑化へ』春期「緑の募金活動」

〈技術普及課〉

4月15日、公益社団法人高知県森と緑の会主催による「春の募金強化月間」（3月1日～5月31日）の一環として、高知市で「街頭募金」活動が行われました。今年は、『植える緑化』から『使う緑化へ』をスローガンに展開しています。

四国森林管理局からは江坂業務管理官と技術普及課職員が参加し、中央公園入口とひろめ市場前での募金活動を行いました。

4月上旬とは思えないほどの暑さのなか、子どもたちが力いっぱい「緑の募金にご協力お願いします」と募金を呼び掛けると、大人から子どもまで多くの方が立ち止まり次々と協力してくれました。

県内各地から参加した子供達は、ひろめ市場前から中央公園に向かう帰り道も時間を惜しむように声を揃えて募金を呼び掛けてくれました。

中央公園では苗木の配布や木のおもちゃの展示などが催され、木のプールで遊ぶ子供たちの元気な姿も見られました。

頂いた募金は、水源の森林づくりや、緑の少年団の育成、国際緑化事業などに活用されることになっています。



転任 あいさつ



林野庁管理課福利厚生室長  
前四国森林管理局 総務企画部長  
**川脇 多久男**

平成30年4月の異動により故郷の高知を離れ、林野庁での勤務となりました。

平成28年4月、桜満開の高知に約18

年ぶりに着任したのが、つい先日のように思われます。2年間、四国局の職員の皆さんはもとより、管内4県の民有林行政の皆様、大学等試験研究機関の皆様、請負事業体や関係団体の皆様、大変お世話になりました。

短い期間でしたが、公私にわたり楽しく充実した日々を過ごさせていただきました。心より感謝申し上げます。

休日には趣味のスポーツ観戦や球技を楽しみ、また、四国各地の名所を巡り、四国の美しい自然や文化に触れ、美味しいお酒や料理を堪能しました。実家も近かったので、少々親孝行もできたかなと思います。

さて、四国森林管理局は、四国の森林面積の13%、原木生産量の15%を占める四国最大の森林所有者です。四国局の職員の皆さんがこれまで培ってきた技術や知見、現場力を如何なく発揮し、地域の森林・林業の課題解決に貢献する。それが、国有林が今後とも地域の森林・林業や国民にとってかけがえのないものであり続けることにつながるのだと思います。

国有林野事業は現場の林業技術者が担っています。現場で培った技術力を発揮し、継承していくことが

我々に与えられた使命です。特にこれから四国の森林・林業を背負う若い職員の皆さんには、常に現場と向き合いながら、林業・木材産業の成長産業化の推進役になっていただきたいと思います。

最後になりますが、これからも皆様方が健康に留意され、ますますご健勝でご活躍されることを心からお祈り申し上げます。お別れのご挨拶とさせていただきます。



# 大豊町の業務について

高知県大豊町  
プロジェクト推進室 主幹

若林 甫



## ・大豊町について

高知県大豊町は四国山地の真ん中に位置し、東は徳島県、北は愛媛県に接する人口3,200人の町です。町の面積に占める森林の割合は88%、うち人工林面積は70%を超えます。一方で町の面積に対して農地は1.1%、宅地は0.5%と、平地が極めて少ない典型的な山村です。また、最初に「限界自治体」という言葉が用いられた町としても知られており、日本の中山間地域の10年先を進んでいるとも言われます。

## ・林業のまちづくり

豊富な人工林資源の出口を作る取組として、高知おおとよ製材の稼働

(H24)、丸和林業チップ工場の稼働(H27)、がすでに行われました。さらに大豊原木ストックヤード(仮称)の整備(H32稼働予定)を現在進めており、これらを合わせて木材資源と近接した木材加工基地が誕生する見込みとなっております。この動きと連動して町内の素材生産量は21,999.2m<sup>3</sup>(H20)↓63,007.7m<sup>3</sup>(H28)と増加しています。さらに、大豊町を含め行政や林業経営体、素材生産業者、製材工場、チップ工場、運送業者が参画している「嶺北広域原木安定供給協議会」は、活動2年目を迎えました。今年度は素材流通のICT化の取組や、林業経営体の労働安全意識向上に向けた取組を行っています。

## ・プロジェクト推進室

大豊町役場では、集中的に取り組むべき7つのプロジェクトを定め、う

ち3つのプロジェクトが班としてプロジェクト推進室を構成しています。85の集落自治体を支援する「元気集落プロジェクト」、杉の大杉、梶ヶ森といった観光資源の活用、国内修学旅行やインバウンド需要を取り込む農家民泊の取組を進める「おいでよおおとよプロジェクト」と、森林資源を循環利用し、林業を次世代へ継承させることを目指す、「100年の森プロジェクト」とがあります。過疎高齢化が進んでいる現状に対して、町内資源を活用した産業の育成による打開を図るうとしており、林業はその中心に位置づけられています。

## ・大豊町での生活の所感

大豊町に向して1年以上が経ちましたが、地域のお祭り等のイベント、地元の方との懇親会(飲み会)や消防団の活動など、業務以外にも様々な形で地域と関わらせていただいています。その中で感じるのは、地域で生まれ育ち60歳、70歳を過ぎても田ん

ぼや畑、山仕事をこなし、地域やその集落で暮らすことに対して誇りを持って生活されている方が非常に多い、ということです。森林・林業という立場からこのような地域の方力となれるよう、微力ながらこれからも精一杯努めていきます。



ストックヤード造成地から(株)高知おおとよ製材、丸和林業チップ工場嶺北共販所を望む



土讃線穴内駅

シリーズ

# もり 四国の森林からこんにちは

安芸森林管理署 東川森林事務所  
森林官 峰村 裕一



東川森林事務所  
(筆者中央)

暖かい日が続き山々に新しい命が芽吹きだし、春の到来を嬉しく思うなか、森林官として2年目を迎えました。  
今回は事務所のある魚梁瀬、東川森林事務所について順に紹介します。  
安田川を県道沿いに進み馬路村を通り越し魚梁瀬ダムを下り赤い吊り鉄橋を渡った先に魚梁瀬地区があります。入る手前には「魚梁瀬丸山公園」が設けられ、桜が満開になる4月初めは桜祭りがあり、会場には人々の笑顔が咲き誇ります。そして、夏には舞台を組み、フェスティバルが開催され、村外からもたくさんの方々が来場があり、賑やかな日となります。また、近くには日帰りの入浴施設「やなせの湯」もあり、家族連れにもお勧めです。赴任したばかりの頃は不安がありました。地域行事も多く、顔を出す度に優しく接していただき、来て良かった

と思います。

東川森林事務所では、魚梁瀬ダムに注ぐ支流沿いから徳島県境の一部を堺にした山深くに位置する国有林面積約2800ha・官行造林約350haを職員5名で管理しています。

管内は急峻な地形が多く、魚梁瀬スキの生産地ということであり、育成天然林と人工林がほとんどを占めています。これまでヘリ集材による択伐、誘導伐の他、主に架線集材などを実施し、森林資源の有効活用と適切な森林整備を行っています。

近年、シカによる食害が深刻になっているなか、東川森林事務所でも同様であり、箱わなによる駆除を今後とも続けていく必要があると感じています。

また、「雁巻林道の窓」から続く歩道の先には当時の人達が木材を搬出するために使用していた森林鉄道跡、「木地師の墓」などといった史跡などが残っています。東川林道の途中にある登山口から尾根を登った県境には「お化け杉」と呼ばれている天然杉が自生しています。遠方からも登山者が訪れています。なお、道中は迷いやすい場所であるため注意が必要になります。

今後普通に、安全・無災害を心掛け、職員と協力しつつ微力ながら魚梁瀬地

域、そして国民共有の財産である森林の保全管理に貢献できるよう努めていきたいと思っています。



木地師の墓



魚梁瀬丸山公園



# 新規採用者の紹介

平成30年4月、6名の職員が採用となり、管内各署等に配属となりました。  
新規採用者の皆さんの抱負等を紹介いたします。



- ① 出身地
- ② 趣味・特技
- ③ 社会人になっての抱負

## 西森 安李

(局技術普及課)



- ① 高知県
- ② ドライブ(土日のどちらかは必ず友人と車で美味しいものを食べに行ってます。  
パン屋巡り)
- ③ まだ仕事という仕事はできていませんが、できることは精一杯やらせていただき、一步一步できることを増やしていきたいです。また、姉も四国森林管理局で働かせてもらっているのですが、姉のような根っからの真面目人ではありません。どうぞ見捨てずに仲良くしてください。

## 中西 真矢

(安芸署)



- ① 徳島県
- ② 旅行・ピアノ・ボルダリング
- ③ 仕事についてはまだ分からないことばかりですが、早く覚えて戦力となれるよう努めていきたいと思えます。仕事以外の時間には積極的に地域のイベントや観光地に足を運んで、公私共に充実した毎日を過ごしたいです。

## 中村光太郎

(高知中部署)



- ① 静岡県
- ② 釣り
- ③ 慣れないことは多々ありますが、職場の方々を支えられながら日々の仕事に励んでいます。林業についても、また社会人としても勉強することばかりの私ですが一日も早く職場の戦力となれるよう何事にも挑戦的に取り組みたいと思えます。

## 森岡 美咲

(四万十署)



- ① 愛媛県
- ② 景色を見ること。口笛をよく吹いています。
- ③ まだまだ分からないことばかりですが、誰かに聞くだけではなく、自分自身で調べて少しずつ覚えていきます。四万十署は皆さんとても優しく、良い環境でこれから仕事を学んでいくことがとても楽しみです。経理の仕事も早く覚えていきたいです。

## 佃 健汰

(愛媛署)



- ① 鳥取県
- ② カラオケ
- ③ 鳥取県出身ですずっと実家で暮らしていたため、四国配属と連絡がきた時は不安でしたが、職場の皆様が暖かく迎えて下さり、どんなささいな疑問にも丁寧に答えて下さいます。  
そのような恵まれた環境で社会人としての一步を踏み出せることを自覚し、一日でも早く愛媛署また、林野庁の職員として力になれるように日々努めていきます。

## 近藤 弘基

(安芸署)



- ① 香川県
- ② スポーツ全般、DVD鑑賞、お昼寝
- ③ 四国の森林・林業に係わる仕事ができることに期待と不安でいっぱいです。まだ、仕事のことは何も分かりませんが、少しずつ出来るように頑張っていきたいです。